



NPO救命おかやま 会報

NPO
救命おかやま
Kyumei Okayama



Vol. 34

2020. 6. 1 発行



1. ご挨拶

理事長 氏家良人（函館市 病院局長）

『令和2年 Covid-19 パンデミックの中で』

今日は令和2年5月25日、Covid-19 パンデミックの嵐が世界中に吹き荒れ、日本ではなんとか第1波を乗り越え、すべての都道府県で緊急事態宣言が解除されました。また、この間の大変な時期に、「#検察庁法改正案に抗議します」で有名になった黒川検事長が、新聞記者と賭け麻雀を行っていたとのことで訓告処分が下されました。

このような混沌とした中、NPO 救命おかやま会員の皆様は、職場で、また、地域で、これまで経験しなかった難題に立ち向かっていることと思います。Covid-19の先行きが見えず三密を避けることから、今年の総会に併せての記念講演会を中止とさせていただきますこと、皆様にはご理解いただきますようお願い申し上げます。

さて、NPO 救命おかやまの活動は地域で心肺蘇生法や外傷初療などを普及することが定款では記されていますが、会員の皆様にとっては自分にとっての新しい知識の吸収や教育スキルの向上を図るという面もあると思います。私にとっては、広く多くの方たちとの交流を通じて、自分自身の社会でのあり方を見つめ直すという面もありました。このNPO 救命おかやまでの活動が、とすれば怠惰で緩きに流されやすい自分を引っ張ってくれたらと思っています。NPO 救命おかやまは助け合うことの重要性、ひとの欠点を追求するのではなく、良い点を引っ張り出すことを教えてくれました。

コロナに関しては、北海道では小さな第1波が2月末に始まり、3月の末に収束したと思ったら、第2波が4月の半ばに始まり、本日、緊急事態宣言が解除されたとは言え、いまま完全には収束していません。ただ、北海道の場合、患者発生は主に札幌市周辺の地域に集中しており、私がいま住んでいる函館では1ヶ月以上新規陽性患者が出ていません。函館は札幌まで車で5時間、JRでも4時間半を要し医療圏、生活圏が札幌とは全く異なります。そのため、患者の発生も岡山県より少ないくらいですが、離れているためひとたびクラスターが発生すると医療を札幌に依存できない状況もあります。函館の唯一の感染症指定施設が私の管理する医療機関のひとつである市立函館病院（函病と呼ばれている）で、道南で唯一の救命救急センターでドクヘリの基地局にもなっています。函館には他にも多くの病院、医院があり、道内では札幌に次いで医療資源は多いのですが、コロナ患者の収容はどこでも嫌がっています。

それで、この地域のコロナ対策として、函病では保健所機能を支える意味で独自でPCR検査を始め、8床のICUを4床増床し、30床の陰圧室を備えた結核病床をコロナ患者用に変更しました。また、救命救急センター26床のうち個室8床に陰圧装置を設置することとし、感染症病床と合わせて軽症～最重症までの約50床の病床を確保しました。危険手当（新型コロナ従事手当）1日4000円、医療者の宿泊ホテルも準備しました。また、各診療科や看護師などの医療者で、ICU管理や救急管理、また、感染症病棟管理に当たる者もピックアップしています。こうして、北海道における第3波に備えています。新たな波が来ないこと、また、小さく終わることを祈っています。

さて、岡山マラソンは今年の中止が決まりました。前のようなコース再開もまだ難しい状況ですが、今の時期に自分の仕事、生活、また、NPOの活動に関しても見直し、次のステップのための準備をしておくことが大切であろうと思います。地理的には離れていますが、できるだけ早く、皆さんとお会いし、一緒にコース開催が再開できることを期待しています



2. ご報告

理事長：氏家良人

◆2019年度第4回理事会

2019年12月13日 於：岡山プラザホテル2F「花葉1」

2019年12月13日に2019年度第4回目の理事会を開催いたしました。議題は、会員数報告、今年度11月までの活動状況報告、今後の活動予定、また、6月～10月までの会計報告がなされました。会員数は、正会員52名、活動会員349名、賛助会員は、団体会員22団体で（2019/12/1現在）、我々の活動を支えてくれています。会計もこれまでのところ健全会計で経過しております。

◆第14回市民のための救命講習会及び2019おかやまマラソン

2019年11月9日（土）・11月10日（日） 於：ジップアリーナ

岡山県医師会との共催による2019年度市民のための講習会は、おかやまマラソン前日の11月9日（土）午後、おかやまマラソン協働事業として開催されました。従来市民のための講習会に、マラソン協働事業という、さらに意義深い講習会になりました。昨年に引き続き、例年参加くださる岡山シーガルスの方々、秦建設の皆様ほか、マラソンランナー・大会関係者の皆様に参加し、合計187名の方々が集った、明るく楽しい救命講習会となりました。講習会を受講したマラソンランナーは希望すれば救命処置を行うことができるステッカーを張ることができ、30余名の方がそのステッカーを貼り、当日走られました。

2019年度はCPAになられた方はいらっしゃいませんでしたが、NPOの会員総勢136名（統括・統括補佐4名、待機班78名、自転車班26名、フィニッシュ班28名）が、AED班として救命にお手伝いできたことは誇らしいことです。皆様の毎年の変わらぬご協力のおかげです。ありがとうございました。

今年の講習会・おかやまマラソンの開催はコロナ感染拡大の状況により中止となりますが、来年また皆様よろしくご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

【第14回市民のための救命講習会】



【2019 おかやまマラソン】



3. ご案内

■ 2020年度NPO救命おかやまの活動について

- ・ 2020講演会・報告会、懇親会：開催中止
- ・ 各コース開催について：現段階で7月までのコース開催はすべて中止
- ・ 2020おかやまマラソンAED班スタッフ活動：おかやまマラソン2020中止に伴い中止
- ・ 2020市民のための救命講習会：11月の「マラソン協働事業としての市民のための救命講習会」は中止
※2020年度内に、市民のための救命講習会(無料)開催については今後検討の上ご連絡いたします。
- ・ 第15回定時総会：参加型(対面式)あるいはWeb会議にて開催予定
※正会員の皆様は、改めてメールにてご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。
コロナ感染状況を見ながら、今後いつものように皆様とともに「明るく、楽しく、わかりやすく」活動を行える日を楽しみにいたしております。随時ご案内をさせていただきますので、会員メールおよびHPよりご確認をお願いいたします。

4. 特集：今、新型コロナウイルスとともに

『ソーシャルディスタンスに思う』

理事 山本英一（平井耳・鼻・のどクリニック）

お互いが手を伸ばして触れ合わない程度の距離、お辞儀をし合って頭がぶつからないくらいなどとも言われますが、診療開始の際、クリニックの外で待っている患者さん達が間隔を開けて並んでいる光景を見るにつけ、世の中に広まり定着した言葉になったようです。

日常においては、色々な距離があります。同僚や友達との距離、親子、恋人、夫婦の距離と様々です。具体的には、人それぞれでしょうが、遠過ぎて近過ぎて、心地良いものではありません。一方、医療や看護、介護の領域では、視診、聴診、触診といった技術面や、寄り添い、共感するといった心のアプローチにおいて、時には、夫婦や恋人より近い距離にならざるを得ない職業に、私達は従事しています。今、私は外来でしか患者さんと話す機会はありませんが、かつては病院勤務で入院患者さんを受け持っていたため、距離が近づき過ぎる場面も多々ありました。不快に思われはしないだろうかと考えながら、清潔を心がけ、必要最低限の時間で、ルーチンを繰り返してきたつもりですが、受け取る方によっては、そうではなかったかも知れません。研修医や実習に来ていた看護学生さんに、働き始めてから大切にしてもらいたいことのひとつとして、この距離感の話をしてきたことも思い出します。

コンビニの会計に並ぶ際、社会的距離確保のための足元の線を気にする自分ですが、やはり、医療は少し違おうと考えます。医療や看護にけるソーシャルディスタンスは、患者さんやご家族との、程の好い距離感であり、今も、コロナの後も、そのように接していければと思います。

🌸『新型コロナウイルス感染禍に大切にしたいこと』

監事 角南和治(岡山協立病院)

この2ヶ月余り、日常の活動に加え新型コロナウイルス対策に多くの時間を費やされた方も多いと思います。私の勤務する病院は感染症指定病院でもなく当初は呑気に構えていたのですが、それでもウイルスの足音が近づくにつれ様々な水際対策から職員サポート、医療資材の確保、発熱外来→入院時の対応、さらに流行期に備えた感染病棟準備など多くの検討を迫られ、中には打開が難しい課題にも直面しました。そんな折、本当にありがたかったのは「NPO救命おかやま」での横のつながりで、相談した方々から親身になって貴重な情報を送ってもらったり、実践的アドバイスをいただくこともありました。コロナ騒動で人と人の直接的なつながりが分断されてきている中で、助けてもらったこと以上に、こうして病院が異なっても同じ目標で活動してきた仲間として大事にしてもらったことをたいへんうれしく思っています。

講習会は4月以降中止になり、このままNPOの活動も休止になるのではと心配されている方もおられると思います。しかしこれまで私たちが培ってきた15年以上にわたる活動は、思った以上に医療現場に根強く浸透しています。先日も急変現場をみて、講習会が始まった20年前頃なら救命できなかったかも、とつくづく感じました。そしてNPOの活動を支えるたくさんの方がいます。今後は感染予防からの講習会開催基準も検討中で、様々な知恵を絞り、私たちが大切にしてきた「目の前の人を助けてあげたい」という思いを継続していければと心から願っています。

🌸『東京医科歯科大学病院のコロナ情報とNPO』

事務局長 岡本知子(東京医科歯科大学)

東京医科歯科大学病院では、学長の指示の下、診療科・職種を問わずに総力を挙げてCOVID-19との闘いに臨んでいます。私は現在、氏家理事長が岡山大学救急医学講座教授をされていた当時の医局員3名を含む15名のICUスタッフが患者の治療に当たっている、東京医科歯科大学学生体集中治療医学講座に在籍しております。医療維新(m3)やテレビ(News ZERO・報道1930・サテ-ル-ジョ)などマスコミでも報道されてご存じの方も多くいらっしゃるかもしれませんが、当大学病院の取り組みをここに簡単にご紹介いたします。

これまで受け入れたコロナ感染患者は5/30現在358人、PCR検査は3239件行いました。5/9時点では重症患者を70人以上、ECMO症例も5例あると聞いています。そもそも、当院は感染症指定医療機関ではありませんが、欧米の流行の状況、また、Covid-19患者のベッドが足りないという東京都からの依頼により、3億円余りの費用をかけICUの大規模改装を行い、人工呼吸器などの整備を急ピッチで進め、ICUを含む4病棟をCOVID-19患者用、1病棟を疑い患者用としました。

COVID-19疑いの患者は2月頃から数人受け入れていましたが、実際に陽性患者を受け入れ始めたのは4/2から、当初はHCUと一般病棟の計2病棟で重症と中等症をそれぞれ診ていて、受け入れ人数が少ないうちにPPE着脱などの職員教育を徹底しました。4月2日に1人、4日に2人目と、徐々に受け入れる人数を増やしていき、4/24からは予定手術を全て止め、4/27には、救急のICUも合体させて計22床のCOVID-19用ICUを用意し、5/30現在では90床コロナ専用にして受け入れを行っています。

コロナに感染した患者は、中等症だから大丈夫だと思っていたら、あっという間に人工呼吸になったり、さらに、次の日にはECMO装着になったりと、予想外に急激に悪くなるのが一つの特徴と聞いています。Covid-19への診療体制を考えた時、全科横断での体制構築は不可欠で、中等症は呼吸器内科、重傷は救急科中心にチームを作り、集中治療部がシステム構築を担っています。各チームには応援の医師(内科系、循環器内科、外科系)が投入され、サポートに入っています。麻酔科は24時間体制で挿管と抜管の全ての責任を負っています。非常時なので、職種という概念も捨てる必要があり、整形外科医は手術がないのでバックヤードチームを作り、逆タスク・シフトを行っています。さらに、病院の入り口には歯科医が立っていて、来院者に対して発熱などの症状があったら教えるよう呼びかけ、場合によっては問診もしています。メンタルヘルスケアサポートチームは患者のケアもちろんですが、COVID-19患者に向かう非常に大きなストレスがかかっている医療者に、緩和ケア科、心身医療科、精神科が合同でメンタルヘルスケアサポートチームを作っています。

COVID-19との闘いは、月単位、もしかすると年単位の闘いになるかもしれません。第2波に備えて、コロナ肺炎疑い紹介外来の設置によるPCR検査とCT検査を迅速化を図ること、コロナと通常診療の両立を7月1日からを目標とし、コロナ専用病棟を1フロア34床で開始、手術・新規患者の受付・一般外来なども通常化できるよう、コロナと通常診療の両立をめざす新たな日常に備えた医療体制を構築を進めているところです。

日々状況の変わる医療現場の目標は、「力を合わせて患者と仲間たちをコロナから守る」。大切なことは助け合いと思いやりと痛感しました。NPO救命おかやまもまさに同じく、会員皆様の助け合いと思いやりで成り立っている団体であり、だからこそ、ここまで続けてきたのだと改めて感じました。今現在は3蜜を避けるために、講演会や多くのコースが中止となり、11月のおかやまマラソン協働事業としての市民のための救命講習会も残念ながら開催中止となりました。ですが、長年継続したNPOの力は再開をされれば今まで同様助け合いと思いやりで継続されることは間違いありません。事務局は再開時にいつも通りサポートできるよう待機しております。

医療も経済も同じ命の大切さのほざまで日本全体が頑張っている毎日、NPOもご多分に漏れずコース開催がない中で収入がなくなり厳しい状況ではありますが、どうぞ皆様今後も引き続きNPO救命おかやまにご協力お力添えよろしく願いいたします。

最後に、私にとって当たり前の毎日は当たり前でないこと、感謝しながら日々を過ごすことの大切さを実感した数か月でありました。💕

🌸『コロナ前提の時代へ』

会員 久我清(AHA岡山BLS・日本救命協会)

■『感染症の歴史と新型コロナウイルス(COVID-19)』

ペスト(黒死病)は60年で2億人、天然痘は6千万、スペイン風邪では5千万人が死亡しています。昨年11/22に武漢で確認されたコロナの5月末の世界死亡数は36万人です。ハーバード大は「人類の4~7割が感染する(Lipsitch疫学教授)(4/1)、「2025年までの流行可能性有り」と警告しています(4/15)。ワクチンができない限り、私は、スペイン風邪、SARSとの感染数やスパイク結合の比率から、7年間程度流行するのでは?と個人的に思っています。(4/1)(文末カッコは、ツイッター@kiyoshikugaの日付です)

■新型コロナのウイルス(SARS-CoV-2)

大きさ:0.05-0.2 μ m。ウイルス含有飛沫:3-5 μ m。サージカルマスクは5 μ mの粒子を防御可。N95は0.3 μ mを防御可です。①飛沫感染:1分間大声で話せば千個以上の飛沫が8分以上空中を浮遊し、吸い込めば感染。マスクして話せば感染防止可能です(5/23)。②接触感染:物についたウイルスは最大9日間生存(3/1)、マスク表面では1週間以上生存(4/21)。③防御:香港大研究では、マスクを70°C5分加熱で不活性化(4/21)、NIH研究ではN95を70°C60分で2回消毒可(5/9)、エタノール80%又はイソプロパノール70%で、30秒で不活性化(3/1)。石鹸よりアルコールの方が5倍効果あり(CDC)、逆に「石鹸の方が勝れる」との意見は1961年の誤解です。香港SARS時の院内研究ではマスク手袋ガウン手洗いを全て行った人は全員非感染でした(2/13)。今回の日本の院内では医師が看護師より3倍感染しています(4/24)。学会でインフルではビタミンC摂取で予防可能との(3/10)研究があります。

■今後

免疫持続期間については、「SARS/MERSでは数年、COVID-19は1-2年」と短い予想です(5/16)。

尚、社会的には、失業率が1%増えると自殺者が2千人増加するので、国の経済支援や人の激励が重要です(5/7)。

歴史的には、1940年代を生きた人は第二次世界大戦一色だったと思います。2020年代を生きる私達はコロナ戦争です。そういう時代に生まれたので逃げ道はありません。大波から逃げようと船の舵をとると横波で転覆します。今しかできないことがある、自分にしかできないことがある、自分の命を使う「使命」を果たすことが重要だと思います。

「NPOのメーリングリストにも度々最新の情報を提供して下さる久我さんに特別寄稿いただきました。久我さん主催のコース(AHA岡山BLS・日本救命協会)ではソーシャルディスタンスを保ち、人形も完全に一人一人体で先進的な取り組みをされておられ、私たちも見習うことがいっぱいです。」(監事 角南和治)

5. ミニ情報

◆バレーボール：「岡山シーガルズ」の皆様が『2019-20 V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN』で準優勝に輝きました。

また、2020年4月15日、岡山県医師会より新しいAEDが岡山シーガルズに寄贈されました。贈呈式には、吉田みなみ選手、川島亜依美選手が出席し、岡山県医師会松山正春会長よりAEDが寄贈されました。毎年11月に行います市民のための救命講習会は、岡山県医師会との共催で行っており、AEDの使い方についても講習しています。いつでもAEDが使えるよう毎年ご参加くださっていますシーガルズの皆様の、今後のますますのご活躍をお祈りいたします。



6. 事務局からのご案内

◆会費請求のご案内

NPOの年度の始まりは6月となっております。新しい年度（2020年度）になりましたので、会費請求のご案内と青色の会費請求用振込用紙を同封いたしております。お振込み用紙をご確認いただき、会費のお支払いをよろしくお願い致します。※赤色の寄付のための振込み用紙と間違えないようお願いいたします。なお、NPO救命おかやまの定款により、3年間会費を滞納した会員は自然退会となり、メーリングリストからのメール削除および会報の発送は行われなくなりますのでご留意ください。

※お振込み先の振替口座は、銀行からの振込も可能です。

銀行振込を希望の方は、会員番号とお名前を記入の上お振込みをお願い致します。

【会員用郵便振替口座】 口座番号：01310-8-95943

口座名義人：NPO救命おかやま(エス・オー・キョウメイカヤマ)

【会員用銀行振込】 会費用銀行口座

ゆうちょ銀行 一三九(イサカキ)店 当座 口座番号0095943

口座名義人 特定非営利活動法人NPO救命おかやま

(トクヒエイリカクツウリカキ) エス・オー・キョウメイカヤマ)

※会費についてのお問い合わせは、事務局までメール (kyumeiok@md.okayama-u.ac.jp) にてご連絡ください。

◆ボランティア保険の加入に関して

会員の皆様には、ボランティア保険（Aタイプ）に今年度も会員の加入手続きを行います。こちらの保険加入条件は前年度の会費を年度末（5月末）までにお支払していただいた会員の方が対象で、費用は会費に含まれます。

不明な点がございましたら、事務局までメール (kyumeiok@md.okayama-u.ac.jp) にてお問い合わせください。

◆住所・勤務先の変更について

住所・勤務先、メールアドレス等の変更はお早めに随時事務局までメール・FAXにてご連絡ください。

※お振込み用紙記載の勤務先や連絡先住所・TEL等に変更がある場合は、変更記入の上、入金手続きをお願いします。

◆入会のご案内

NPO救命おかやまでは現在会員を募集いたしております。NPOの活動にご興味のある方のご紹介をお願いいたします。お申し込みは、HPの入会の項目よりお申し込みフォームにてお申し込みください。

尚、HPにて申込入力後、またはコース開催時の入会申込用紙提出後、入金がまだの方は会員の手続きは未登録の状態ですので、早めの入金をお願いいたします。

◆寄付金募集のご案内

NPO救命おかやまでは現在寄付を広く募集いたしております。NPO救命おかやまの活動をさらなる充実のため、心肺蘇生の輪を広げるこの活動にご賛同いただき寄付金のお申込みいただけます場合は、同封の赤色の振込用紙(寄付用)よりお申し込みをお願いいたします。

また、NPO救命おかやまの活動にご賛同いただける方が周りにいらっしゃいましたら何卒ご紹介の程よろしくお願い致します。

尚、NPO救命おかやまは特定非営利活動法人ですので、寄附に伴う税制上の優遇措置はありません。

※寄付専用の振替用紙をご利用ください。寄付の振替用紙での会費のお支払いはできませんのでご留意ください。

【寄付用郵便振替口座】 口座番号：01300-9-104786

口座名義人：NPO救命おかやま(エス・オー・キョウメイカヤマ)

【寄付用銀行振込口座】 ゆうちょ銀行一三九(イサカキ)店当座口座番号0104786

口座名義人：特定非営利活動法人NPO救命おかやま

(トクヒエイリカクツウリカキ) エス・オー・キョウメイカヤマ)



【発行元】 特定非営利活動法人 NPO救命おかやま 事務局

〒700-0914 岡山市北区鹿田町1-7-10
電話&FAX：086-226-3999

E-mail：kyumeiok@md.okayama-u.ac.jp
HP アドレス：http://npo-ok.umin.jp

